

立田先生との思い出

吉井 夏央

私が初めて立田先生に出会ったのは、大学1年生の教職の授業でした。私は、教員になりたいという夢を叶えるために神戸学院大学に進学しました。教職を取り、初めて立田先生の授業を受けたときに私はこの先生に4年間ついていきたいと思ったことを今でも覚えています。大学では、女子ラクロス部に所属し、週4～5日アルバイトもしていました。また、往復4時間かけて通学していたため、勉強との両立はとても大変でした。大学2年生のときにコロナウイルスが流行し、授業は全てオンラインになりました。このままで教員になれるのかなど不安に思い始めたのもこの頃でした。そんなときにも立田先生はオンライン授業のたびに「吉井さん、元気？」と声をかけてくれていました。私はその言葉にいつも助けられていました。何度も立田先生のゼミを選び、ゼミでもたくさんお世話になりました。その中でも特に私が思い出に残っているのは、卒業式の日です。卒業証書はゼミごとに各教室でゼミの先生から受け取ります。私は、4年間お世話になった立田先生から受け取ることができとても嬉しかったです。その際に私は立田先生から人文学部賞の証書もいただきました。今まで頑張ってきたと改めて思えた瞬間でした。立田先生に出会えてなかったらこんなに充実した大学生活を送ることはできなかったと思い、とても感謝をしています。

私は立田先生の、一人一人と大切に关わる姿をととても尊敬しています。今年の4月から私は大阪にある豊能地区で中学校の教員をしています。1年生の担任をし、5クラスの授業を担当しています。生徒数も多く大規模校ですが立田先生を思い出し、一人一人の生徒と大切に关わるようにしています。そうすることで信頼関係を築くことができていると実感しています。これもすべて立田先生のおかげです。

そんな立田先生に出会えて私は本当に良かったです。立田先生のおかげで私は、「人を思う優しさ」と「人と关わる大切さ」を学びました。これらのことはこれからの教員人生の中で特に私が大切にしたいものです。これから出会う様々な生徒と保護者、同僚の先生などとの関わりを大切にしていきたいです。そして自信を持って立田先生のように一人一人と大切に关われていると感じたときには、ぜひもう一度立田先生にお会いして色々なお話をしたいです。立田先生が退職してしまうのはとても寂しいですが、先生から教わったことを忘れず、次は私が立田先生のように「良い影響を与えることができる」教員になりたいです。

立田先生、本当にお世話になりました。これからもどうぞお体に気を付けてください。ありがとうございました。